

# 令和5年度 かほく市創生総合戦略 推進計画事業に係る外部評価委員会会議録

令和5年9月20日（水）10:00～  
かほく市役所 2階 議会会議室

○出席委員

学識者 石川県立看護大学 教授 濱 耕子  
 商工団体 かほく市商工会 会長 南 春夫  
 市民代表 かほく市町会区長会連合会 会長 西田 省三  
 女性団体 かほく市女性協議会 会長 松村 千恵  
 農業団体 石川かほく農業協同組合 代表理事専務 村井 一宏  
 金融機関 株式会社北國銀行 公務部公務グループ長 山田 泰輔  
 労働団体 PFU労働組合 執行委員長 富永 慎弥

○事務局

千田地域政策部長、荒井企画振興課長、氣谷主幹、谷口主事

開会	
委員長挨拶	石川県立看護大学 教授 濱 耕子  ～濱委員長による議事進行～
議事①	①令和4年度第2期かほく市創生総合戦略推進計画事業成果について 資料1及び別紙資料1-①、②に基づき事務局より説明を行った。 目標の達成度を測る対象事業は34事業あり、そのうち目標値を達成できた事業（達成度100%以上）は16事業。目標値を概ね達成できた事業（達成度80%以上）が8事業。目標値を達成できなかった事業が10事業であった。 結果、令和4年度における目標値の達成割合は71%だった。 なお、1事業については今年度評価対象外とした。
委員質問	◆NO.1 企業誘致のアプローチはどのようにしているのか。
事務局回答	相談の受付業務がメインである。問合せ内容については大規模な面積の土地を求められる案件が多いため、新たに工業用地や事業用地の開拓を検討すべきフェーズに入っているのかもしれない。

委員質問	◆市民の方の雇用創出を促すための具体的な施策はあるか。
事務局回答	企業立地支援制度においては、かほく市民を1人雇用した場合50万円加算することとしており、市民の雇用を第1に検討してもらえるような施策を提供している。
委員質問	◆NO.9 関東かほく会の取組について お盆期間に関東で生活されているかほく市出身者と懇親会を開催するなど、関係人口の増加を目指した取り組みをしているが、コロナ前と比較して参加者が減少している。 それでも、関東かほく会には多くの方が参加していると聞いているが、人を集める手段はないか。高齢化が進んでいるため、参加を躊躇される方もいる。
事務局回答	関東かほく会の会員の方からも高齢化が進んでいるため、若手の会員獲得を目指した活動をしたいとの意見もあった。市として協力できることは協力したい。
委員質問	◆NO.21 学校との連携について 近年、教職員の残業時間が問題視されていたが、解消されたか。 教職員の勤務時間はきまっているため、地域活動に関することで会議をしようにも時間外労働を強いることになってしまい、相談しにくい。学校と協力して子どもたちが元気になる取り組みを行いたいが、教職員の方からは時間外の労働はできないといった意見や、取り組みたくないといった態度が見られ、残業問題が根幹にあると思う。
事務局回答	残業問題は解消されていないが、中学校の部活動の地域移行の話が進んでいるため、中学校に関してはある程度解消されるかと思う。 小学校については事務員の増員などを実施しているが、いまだ残業問題は取り切れていない。
委員質問	◆NO.34 西田幾多郎哲学館について 来場者数が増加しないことについて女性協議会で話題になるが、哲学というものは敷居が高く、かほく市の人でも1回行ったら2回目は行かないといった方も多いので、魅力的な講座を増やしてほしい。 今度、為末さんの講演もあるが、来場を促すような取り組みを検討して頂きたい。

事務局回答	<p>哲学を軸に事業展開を行っていることもあり、関心がない方は足を運ばないが、先日は哲楽夜市というイベントを開催し、多くの方にご参加頂いた。今後は哲学館の所管課において様々な取り組みを検討していくことと思う。</p>
委員質問	<p>◆NO.2 創業者支援とはこういった施策を実施しているのか。</p>
事務局回答	<p>若者や女性をターゲットとし、創業時の初期費用を補助している。中には飲食業やキッチンカーを活用した創業もある。また、空き家空き店舗を活用した創業では女性の方が多く、ネイルサロンやリラクゼーション、小物販売業、エステティック業の利用が多い。</p>
委員質問	<p>◆交流人口の創出にあたり、何に重点をおいて取り組むか方針はきめているのか。</p>
事務局回答	<p>観光部門については、かほく市オンリーワンの資源が少なく、西田幾多郎は世界的に有名ではあるが、哲学がニッチな市場であることは認識している。</p> <p>道の駅高松を核にした取組など、新たな観光資源の創出を考える必要がある。北部交流ゾーンではぶどうや柿の栽培もしており、フルーツを全面に押し出した展開ができればとの構想もあるが、進め方については社会情勢等を踏まえてブラッシュアップしながら検討していきたい。</p>
委員意見	<p>◆羽咋市ではホテルの誘致を行っている。かほく市はスポーツを項目としてあげているため、スポーツに軸をおいて事業を検討するのはどうか。</p>
事務局回答	<p>かほく市総合体育館の開設を来春予定しており、バレーボールをはじめ、スポーツに関連した取り組みが重要であることは認識している。</p>
委員質問	<p>◆NO.8.観光振興の新しい人の流れについて 市内観光の目標数と現況値に格差があるが変更は検討しているか。</p>
事務局回答	<p>個票を作成した際の現況値がかなり高いものであり、令和2年度の新型コロナウイルス感染症の影響により激減した。令和2、3年度にもKPIの変更について内部でも協議したが、新型コロナウイルス感染症の収束がいつになるかわからないため、変更の決断にはいたらなかった。</p> <p>コロナ禍前の数字を目指して取組を行っていきたいと考えているため、目標値の変更は考えていない。</p>

議事②	②令和4年度末かほく市人口ビジョンの状況について 別紙資料1-②～⑥に基づき事務局より説明を行った。
委員質問	◆H27年より人口が増加しているが何か要因はあるのか。
事務局回答	<p>道路交通網が整備されたことや、イオンモールかほくができたこと、子育て世帯をターゲットとした定住促進施策の実施などが、総合的に評価されているのではないかと。</p> <p>地価は上昇傾向にあるが、近隣市町と比較した際に安価に購入することができることも要因だと思われる。</p>
委員質問	<p>◆様々な施策が実を結び人口増加につながっているが、農村地域に目を向けると少子高齢化が顕著に表れており、年々人口、世帯数が減少しており、空き家も発生している。</p> <p>高齢者の方には元気に生活してほしいという思いがあり、100歳体操や、老人会の活動、地域のイベントなどを実施し、地域住民の元気づくりを行っている。</p> <p>行政で農村地域の人口減少に歯止めをかけるような施策を検討しているか。</p>
事務局回答	<p>人口増加が著しいのはかほく市内南部であり、北部の大海地区や、金津地区については減少が著しいことは認識している。現在は市全体で一律的な定住促進施策を実施しているが、将来的には対象地区を限定した取り組みを実施するなど、施策を工夫する必要がある。具体的な施策の立案には至っていないが、課題としては認識している。</p> <p>なお、市役所内の組織改編がされたのも地域課題に向き合う必要があるとの認識があつてのことであり、人口増で喜んでいる地区もあれば、祭りを存続できないと困っている地区もある。特効薬はないため、まずは人口の維持を目指した施策を実施していきたい。</p>
委員質問	◆南部にはまだ人口増加を受け入れるための土地はあるのか。
事務局回答	<p>限界が近づいてきている。行政主導ではなく民間事業者が主導であるため、コントロールができておらず、地域間のトラブルもあり、課題としてとらえている。南部人口の増加がいつまで続くかを把握しなければならないと課題認識している。</p>

その他	<p>○地方創生・総合戦略に係る国の動向及び市の対応について 資料3に基づき事務局より説明を行った。</p> <p>国によるデジタル田園都市国家構想総合戦略が策定されたことに伴い、今後、かほく市においても「(仮称)かほく市デジタル田園都市構想総合戦略」を策定する予定である。</p>
閉会	<p>南副委員長あいさつ</p> <p style="text-align: right;">11時20分終了</p>